



歯学部創設30周年



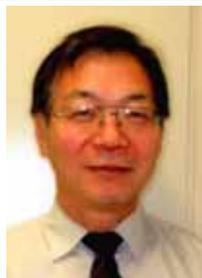
発行責任者:歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者:広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

巻頭言

顎口腔疾患制御外科学教室 角田 左武郎

2006年も今月で終わりとなります。今年も昭和大学歯学部においていろいろなことがありました。その中から以下の2つについて感想を述べたいと思います。



その一つは、共用試験が正式実施になったことであります。昭和大学歯学部は1月24日(火)、25日(水)にCBTを、2月11日(土)にOSCEを臨床実習に上がる前の学生(4年生)が受験しました。成績もトライアルの時と比較するとかなり良かったとのことです。この試験は、平成13年度入学した学生が臨床実習を開始する前に受験するもので全国共通であります。この共用試験は平成13年3月に「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告書「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について - 学部教育の再構築のために -」の中で提案された「歯学教育モデル・コア・カリキュラム - 教育内容ガイドライン」の到達度を評価するために考えられた試験方法です。CBTでは知識領域、そしてOSCEでは技能・態度領域の能力が評価されるといわれています。11月をもって共用試験に参加している28大学すべて第1回目の試験を終了しました。

もう一つは、11月4日(土)に行われた歯学部創設30周年記念であります。歯学部だより11月号で宮崎歯学部長が述べていましたように、この30年は決して平坦な道のりであったわけではありません。諸先輩の並々ならぬ努力と関係筋のご援助があったことを肝に銘じなければなりません。しかも、我々はここで留まっているわけにはいかないのです。歯科医師選別化の時代を迎え、歯科医師に対する世間の風は一層厳しくなっています。大学教育の果たす役割は今まで以上重要になってきています。このような中で、歯学部は教育カリキュラムを改正して教育改革に取り組んできました。教育改革は、一朝一夕に出来るものではありません。中身の伴った改革をするためには、教職員一同身を削るような努力を行い、自己変革をする必要があると思います。新カリキュラムは来年度から6年目に入ります。その真価が問われるときであります。

父兄会秋季部会開催

歯学部長 宮崎 隆

11月25日(土曜日)午後2時から恒例の父兄会秋季部会が旗の台校舎で開催されました。秋季部会は各学部に引き続き指導担任との個人面談を行うため、保健医療学部については長津田校舎で開催しました。

歯学部はここ数年参加者が増えていますが今年も200名強の参加者があり、歯学部会場の1号館7階講堂には追加の椅子を用意しましたが、超満員でご不便をおかけしました。最初に宮崎学部長が歯学部創設30周年記念事業の報告と学生の国際交流プログラムの推進について紹介しました。引き続き榎歯科病院副院長が今年度から必修化になった歯科医師臨床研修制度について説明し、立川学生部長が全歯体を始めとする学生の課外活動の報告と健康管理や生活態度に関する諸注意を行いました。最後に佐藤教育委員長が年度末までの各学年のダイアリーを紹介しながら共用試験、定期試験、進級試験および国家試験について説明しました。

部会終了後、5階会議室と基礎系各教授室で各指導担任との個人面談を行いました。夕方に50周年記念館で開催された懇親会にも大勢のご父母が参加し、教員を含めて懇親を深めました。



行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 1月 4日(木): 仕事始め
- 1月20, 21日(土, 日): 大学入試センター試験
- 1月23, 24日(火, 水): 歯学部4年CBT試験
- 1月28日(日): 歯学部選抜 期・センター試験併用入試
- 2月 3日(土): OSCE
- 2月10, 11日(土, 日): 歯科医師国家試験

臨床研修医マッチング結果

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成19年度歯科医師臨床研修医のマッチング結果が、10月31日(火)2時に歯科医師臨床研修マッチング協議会から発表されました。

全国でマッチングに参加者して希望順位を登録した3501名(前年度3584名)のマッチ率は93.6%(前年度93.9%)で3276名(前年度3367名)がマッチングしました。全国歯科大学付属病院での平均マッチ率は88%で、昭和大学歯科病院ではプログラムA(定員96名)に81名、プログラムB(定員4名)に0名で定員に対するマッチ率は81%という結果でした。この欠員に対する追加募集選考が、12月2日に歯科病院で実施され、プログラムAに11名、プログラムBに4名の追加採用が決定されました。

昭和大学歯学部卒業者の動向については、本年度から設置された臨床研修医マッチング支援委員会(委員長:古屋良一教授)から、新卒予定者99名中98名、既卒者11名中8名が仮採用契約済み(12月13日現在)との採用決定状況が報告されています。

富士吉田教育部ファシリテータ養成ワークショップ開催

PBL委員 片岡 竜太



第1回昭和大学・1年次 PBL ファシリテータ養成・シナリオ作成ワークショップが11月18日(土)、19日(日)に昭和大学富士吉田校舎で開催されました。参加者は63名(医学部12名、歯学部14名、保健医療学部3名、富士吉田教育部30名)で、他大学からの見学者は6大学7名でした。歯学部PBL委員会から6名参加しました。タスクフォースは医学教育推進室の高木教授をはじめ8名で、歯学部では中村教授と片岡講師が務めました。

今回のワークショップは、招聘タスクの岐阜大学医学部教授 高橋優三先生の講演の他、実際 ファシリテータを体験する体験 PBL、ファシリテータが PBL 上のトラブルにどのように対応するか考える「あなたならどうする」を中心に構成され、ロールプレーをまじえた各班の発表で大いに盛り上がりました。最後に小口理事長および細山田学長から4学部横断 PBL チュートリアルにより、問題解決能力がありかつチーム医療ができる医療人を育て、昭和大学をより魅力ある大学にするため、協力してほしいと熱のこもったお話があり、学長から修了証が参加者に手渡され、2日間にわたるワークショップが終了しました。4学部横断 PBL では歯学部が現在用いている学生・ファシリテータガイド(手引き)をほぼそのまま、使用することになりました。今後も歯学部 PBL 委員会は、中村委員長のもと、歯学部 PBL と昭和大学全学の PBL を盛り上げるために、全力を尽くしていく所存です。

最後に岐阜大学の高橋先生にいただいたお言葉の一部を載せます。「2日間にわたるWSは、WS終了の先生がたの行動変容に繋がるほどのものであり、これは実行委員(タスクフォース)の熱意と準備に支えられていた。準備状況については、報告書に記載されているので、他の大学の人には大いに参考になるかと思う。ただ熱意については、これだけ大勢の実行委員の前向きな力を束ねる事について、他の大学で容易に模倣できるものではない。昭和大学のWSの卓越さは、ここにある。」

ータガイド(手引き)をほぼそのまま、使用することになりました。今後も歯学部 PBL 委員会は、中村委員長のもと、歯学部 PBL と昭和大学全学の PBL を盛り上げるために、全力を尽くしていく所存です。



最後に岐阜大学の高橋先生にいただいたお言葉の一部を載せます。「2日間にわたるWSは、WS終了の先生がたの行動変容に繋がるほどのものであり、これは実行委員(タスクフォース)の熱意と準備に支えられていた。準備状況については、報告書に記載されているので、他の大学の人には大いに参考になるかと思う。ただ熱意については、これだけ大勢の実行委員の前向きな力を束ねる事について、他の大学で容易に模倣できるものではない。昭和大学のWSの卓越さは、ここにある。」

最後に岐阜大学の高橋先生にいただいたお言葉の一部を載せます。「2日間にわたるWSは、WS終了の先生がたの行動変容に繋がるほどのものであり、これは実行委員(タスクフォース)の熱意と準備に支えられていた。準備状況については、報告書に記載されているので、他の大学の人には大いに参考になるかと思う。ただ熱意については、これだけ大勢の実行委員の前向きな力を束ねる事について、他の大学で容易に模倣できるものではない。昭和大学のWSの卓越さは、ここにある。」

日米レジデントサミット開催

歯科矯正学教室 山口 徹太郎

11月9、10日(木、金)の両日、カリフォルニア大学サンフランシスコ校と昭和大学の矯正科所属卒業後研修生が一同に会し、第1回 The Pacific Rim Orthodontics Residents Summit が昭和大学歯学部歯科矯正学教室主催で行われました。カリフォルニア大学サンフランシスコ校からは Arthur J. Miller 教授



と John C. Huang 助教授にも出席いただきました。

本会は、各国の若手研究者・臨床医が自由に意見を述べ合い、矯正臨床における現在の問題点を様々な角度から抽出し、将来の研究や臨床、そして、卒業教育のあり方を検討することを目的としたものです。

テーマは 1. 現在、異なる国々で施されている矯正臨床の特徴を把握する、 2. 治療法選択のエビデンスを理解する、 3. 臨床上的問題点を整理する、 4. 矯正臨床に先端技術を取り入れる必要性和意義を検討する、です。両日にわたり臨床・研究について活発な討議がなされました。本会議で討論された新鮮な視点と幅広い意見は、将来の歯科矯正学ならびに臨床に数多くの成果をもたらすことが期待できる有意義なものとなりました。今後、毎年一度の開催を計画し、来年以降は環太平洋地域各国の各大学(南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ソウル大学、台北医学大学)に拡大していく予定です。

テーマは 1. 現在、異なる国々で施されている矯正臨床の特徴を把握する、 2. 治療法選択のエビデンスを理解する、 3. 臨床上的問題点を整理する、 4. 矯正臨床に先端技術を取り入れる必要性和意義を検討する、です。両日にわたり臨床・研究について活発な討議がなされました。本会議で討論された新鮮な視点と幅広い意見は、将来の歯科矯正学ならびに臨床に数多くの成果をもたらすことが期待できる有意義なものとなりました。今後、毎年一度の開催を計画し、来年以降は環太平洋地域各国の各大学(南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ソウル大学、台北医学大学)に拡大していく予定です。

上條奨学賞(研究業績)を受賞して

歯科放射線学教室 岡野 友宏

このたびは「歯科X線画像検査による患者被曝線量の低減」によって上條奨学賞を受賞し光栄でございます。これまで研究に協力して頂いた教室の先生方、昭和大学をはじめ多くの関係者に深く感謝の意を表します。



いうまでもなく歯科疾患の診断にX線画像検査の果たす役割は大きいものがあります。しかし一方で診断用放射線被曝に伴う障害の発生が集団レベルで増加することが知られています。そこでX線画像検査の適切な活用と検査あたりの線量低減が検討されています。歯科X線撮影に伴う患者被曝線量の測定の適正化、検査あたりの線量低減法の評価、X線画像の質の評価と線量低減に伴う画質の保証、日常的な撮影業務に関わる品質保証プログラムの立案、EBMに基づく画像検査の適用・選択基準の確立、等が画像技術の進歩に伴って変容しながら進歩してきました。

私たちは歯科・口腔領域の画像診断学を専門とするものですが、同時にこうした領域における研究を継続して行うことで、自らの診療にフィードバックしております。最近の例ではインプラントの術前検査としてのCTでは当初の半分以下の線量であっても、多くの症例では検査目的を達することが判明しており、徐々に線量を低減しています。また、地域の歯科医師会の先生方の協力を得て、各歯科医院でのX線撮影が適切な条件でなされているかどうかの調査研究を行っており、結果は各歯科医院にお返しし、適切な対応を指示することになっています。こうした実際的な活動を行うに当たっても、今回の受賞は大きな励みになりました。ありがとうございました。

上條奨学賞(研究補助)を受賞して

口腔病理学教室 入江 太郎

12月22日の歯学部教授総会において学長先生より「上條奨学賞」が授与されました。本年度は歯学部創設30周年という記念すべき年であり、また、この歯学部創設30周年記念行事に伴い、教授総会においての表彰という格別のご配慮を頂き、身に余る光栄なことで感謝しております。「上條奨学賞」という歴史あるかつ荣誉ある賞を頂けたことは、ひとえに立川教授をはじめとするこれまでの多くの教室員



の先生方のご指導とご助力によるものであります。また、口腔病理学教室のみならず私どもと共同研究をして頂きました歯科矯正学教室、口腔外科学教室などの他教室の先生方や、昭和大学医学部、薬学部や腫瘍分子生物学研究所の先生方のご指導とご協力によるものでもあることをご報告させて頂くとともに、合わせて深く感謝申し上げます。

私どもが進めて参りましたレーザーマイクロダイセクション法は、組織標本上における核酸や蛋白質の定量的解析を可能とした形態学の悲願とも言えるものであり、様々な分野に応用可能な有益な研究手法であります。我々が確立したシステムにより、今日では誰もが結果を出し得る非常に安定した手法となるに至っており、多くの方々に用いられております。今後も外科病理学分野への臨床応用をますます進めていくとともに、特に学際的研究において他分野の研究者との共同研究をさらに広げていきたいと思っております。

微力ではございますが昭和大学のますますの発展に貢献できるよう努力していきたいと考えております。

日本歯科人間ドック学会学術大会開催

歯周病学教室 宮澤 康



「健康が寄与する暮らしの健康」をメインテーマに第9回日本歯科人間ドック学会学術大会(大会長:宮下元歯学部教授)が11月18日、昭和大学上條講堂で開催されました。

一般講演13題、特別講演は「歯周病と全身疾患との関係」というテーマで愛知学院大学の野口俊英教授が講演され、同シンポジウムは「ドックは健康にどのように寄与しているか」をテーマに行われました。シンポジストの相良俊男氏(東京千代田区開業)は「長期にわたる口腔健診が健康に与えるもの」と題して講演され、次いで、日本人間ドック健診協会副理事長である笹森典雄氏(牧田総合病院附属健診センター長)は「人間ドックと健診意識の変遷」と題して講演されました。

最後に政策責任者である櫻井充氏(医師・参議院議員)がドックを基盤とした予防効果とガイドラインの作成の必要性を指摘されました。特に成人の口腔健診が一部企業を除いて、あまり実施されていない現状を鑑みても、今後の歯科人間ドックの役割と発展が期待されます。



藤が丘病院における歯科セミナー

高齢者歯科 佐藤 裕二

昭和大学医学会の後援で、2006年11月24日に藤が丘病院で、「そこなわれた歯と健康を取り戻す - 身体の中の空白地帯を埋め、医療系総合大学の強みを発揮するために - 」と題した講演を行いました。歯を失った場合の全身的な問題点と治療法について、義歯やインプラントの実物を手に取っていただきながら、最新の話題を交えて紹介しました。夕方7時からと遅い時間でしたが、看護師さんたちを中心に約50名が熱心に聞いてくださり、多くの質問をいただきました。



本セミナーは医学教育者のためのワークショップと一緒にタスクをしている井上和明助教授(消化器内科)と、この夏の三島の歯学教育者のためのワークショップの際に偶然にお会いしたことがきっかけでした。由緒ある昭和大学病院を描いた表彰盾をいただきました。今後とも、昭和大学の学部間の連携を強めるために努力したいと思います。

全国歯科大学同窓会・校友会会議

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成18年11月18日(土)、九段下ホテルグランドパレスにて、第53回全国歯科大学同窓会・校友会懇話会が盛大に開催されま



した。全国29歯科大学(歯学部)同窓会・校友会が年に1回、一堂に会する交流の場ですが、今回は、昭和大学歯学部同窓会が当番校をつとめました。各大学同窓会・校友会のトップ(会長、副会長、顧問、理事など)87名の参加者を、本学歯学部同窓会本部役員(飯島会長以下30名)と同窓会東京支部、神奈川支部役員(9名)とが協力してお迎えました。

まず、懇話会では飯島会長、小谷田日本歯科医師会常務理事、渡邊東京都歯科医師会副会長、宮崎歯学部長にご挨拶をいただきました。次に、「歯科医師臨床研修必修化に伴う各大学の取り組みと問題点」と題したパネルディスカッションでは、本学総合診療歯科の長谷川助教授がコーディネーターを務め、東京医科歯科大学の新田助教授、日本歯科大学の秋山助教授、東京歯科大学の一戸教授に各大学における臨床研修への取り組みをご紹介いただきました。この後、次期当番校(九州大学歯学部)を選出して懇話会は閉会となりました。

懇親会は、飯島会長、川和病院長、蒲生日本歯科医師連盟副会長のご挨拶に続き、立川教授の乾杯でスタートしました。和やかな雰囲気では進行し、活発な情報交換等で約2時間があっという間に過ぎました。なお、懇親会では本学音楽部(MAS)のOBを中心としたジャズバンドが軽快な音楽を奏でて、場をさらに和ませました。



学会賞受賞・昇任

広報委員長 五十嵐 武

受賞

・滝口 尚(歯周病学教室)

平成18年10月19-21日に大阪国際交流センターで開催された第49回日本歯周病学会秋季学術大会において、日本歯周病学会専門医優秀ポスター賞を受賞されました。題名:「歯槽骨の改善が認められた重度歯周炎の1症例」



昇任

・原 聡(高齢者歯科学教室)

平成18年12月1日付:助手(病院長直属)に昇任

診療統計 (平成18年11月分)

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,051	741.3	717.9	796.6
入院患者	462	15.4	14.3	13.0

編集後記

広報委員(口腔生理学教室) 前田 昌子

今年の漢字が「命」に、新語・流行語大賞が「イナバウアー」に決まり今年も最後の月が終わろうとしています。4月から職員になり年末がこんなにも忙しかったのかと驚いています。大掃除はおろか、年賀状をいつ書こうかとカレンダーとにらめっこしています。

先日数年ぶりにPBLのファシリテータとして富士吉田に行ってきました。久しぶりの寮は直ぐ下まで民家が建っており、無線LANが完備され、陸の孤島という印象とは全く変わっていました。

最後になりますが、年末の忙しい時期に短期間で原稿をご執筆くださいました先生方、そして初めての編集作業にたくさんの助言をくださった広報委員長の五十嵐先生に感謝いたします。

来年も皆様にとって良い一年になりますように。